



3.3

2030年までに、エイズ、結核、マラリア及び顧みられない熱帯病といった伝染病を根絶するとともに肝炎、水系感染症及びその他の感染症に対処する。

3.5

薬物乱用やアルコールの有害な摂取を含む、物質乱用の防止・治療を強化する。

3.9

2030年までに、有害化学物質、並びに大気、水質及び土壌の汚染による死亡及び疾病の件数を大幅に減少させる。

北野 忠則

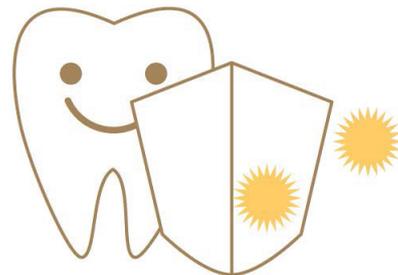
附属病院

口腔診断・総合診療科

歯科用接着剤の接着強度の向上で 感染症としてのう蝕を予防する

虫歯になって治療した歯が再び虫歯になることを「二次う蝕」といいます。虫歯を治療した後の詰め物や被せ物と歯、被せものをした歯と隣接する歯との間、クラウンと歯肉の間など、年月の経過とともに隙間ができて、虫歯の原因となるプラークが溜まりやすい場所になります。虫歯の原因であるミュータンス菌は、数ミクロンと小さいため、歯と歯科用接着剤の微小な隙間に入り込み、歯そのものを虫歯にしていきます。

う蝕罹患率が減少傾向にあっても、罹患してしまった歯の処置を簡便で正確かつ恒久的な接着修復をおこなうことで二次う蝕の防止、さらには感染症としてのう蝕予防につなげることができます。



message

虫歯の治療に使われる生体材料を歯と強力に接着することは、非常に困難です。これが可能になれば、脱離や二次う蝕もなくなり、持続的な接着で口の中の過酷な環境に耐えることができれば、今まで以上に永く機能し続けてくれることでしょう。